

## 『柔和と寛容の力』 コリント人への手紙第二 10章1～6節 2016.7.24(聖日礼拝説教より)

『わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。』 マタイ 11:29

◆パウロはコリント教会から誤解され、非難された。「面と向かっては弱腰だが、離れていると強硬な態度…／肉に従って(自分の影響力・権威を保とうとして)歩んでいる…」と。パウロは「神に仕える者」として、福音に関しては一歩も譲らないが、人前では自分を無にして徹底して仕えた！彼は、その人々の誤解や悪口にどう向き合ったのか？『私パウロは、キリストの柔和と寛容をもって、あなたがたにお願いします(1節)』。人々のあらゆる不健全な感情に対して私たちは、イエス様がお持ちの『柔和と寛容』で向き合う！「柔和」とは「謙り、逆らわない穏やかさ」、「寛容」は「親切・優しさ」の意。「愛は寛容であり、愛は親切です…自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず…( I コリント 13:4～6)」の通り！明らかな悪意や中傷などに、「謙り、穏やかに、優しく向き合うこと」が最善！すぐにキレたり、ムカついたりする私たちが、まず御前にひれ伏し、心鎮められ、何よりイエス様からいただく愛で心満たされて向き合えば、何もこじれることはない！

◆ある教会で、無神論者との公開討論会が開かれた時、彼らの非難中傷に対してクリスチャンは、反論せず、ただ自分の人生で実感した神の憐れみ、救いの出来事を淡々と証した。ある元覚醒剤中毒者は、イエス様と出会って完全に立ち直ったと証し、離婚寸前の夫婦は、イエス様を信頼して、もう結婚生活を始め直したと、どこまでも穏やかに、謙り、喜ばしく、淡々と語った。討論会に来た大勢の反対者たちが、神の存在を認め、50名近い方々がキリストを信じたいと申し出た！無神論者は、あなたを通してイエス様の優しさを知り、あなたによってキリストの笑顔と赦しと救いを知ることになる！

◆悪魔は私たちの人生を支配するために、心に3つの足場(要塞)…様々な思弁、神に逆らう高慢、すべての誘惑の罠(5節)…を築く。敵はすぐに、理屈を言い、逆らい、誘惑の罠をかけてくる！しかしそのすべての悪しき業を打ち砕くのは、イエス様を徹底的に信頼して穏やかにし、十字架のイエス様の謙遜の姿を仰ぎ、どんな人にも注ぐ愛を心にいただくこと。

★今週、出会うすべての人に優しく穏やかに対応できます様に、イエス様の許で過ごし、祈り、愛に満たされよう。